Hanged Man

第18回グラフィック「1_WALL」グランプリ受賞者個展

平田尚也展「不完全な監獄」

2019年1月8日[火]−1月25日[金] 11:00−19:00 日曜・祝日休館 入場無料

オープニングパーティー
2019年1月8日[火]
19:00−20:30

トークイベント　菊地敦己（グラフィックデザイナー）×平田尚也
「彫刻、グラフィックについて」2019年1月17日[木]19:10−20:40
＊参加無料・要予約　ご予約はウェブサイトから http://rcc.recruit.co.jp/gg/

主催：ガーディアン・ガーデン
協力：株式会社堀内カラー
株式会社マル・ビ

平田尚也は、ネット上の3Dデータを仮想空間で立体彫刻を作るように組み立てた作品「“Demon” “Space Ship” “Royal Drive”」で、第18回グラフィック「1_WALL」グランプリを受賞しました。審査員からは、高い完成度やユニークな着眼点が高く評価されました。

大学時代に彫刻を専攻していた平田は、高価な彫刻素材ではなく、ネット上で無限に収集することができるフリーの3Dデータや画像データなどを作品に用い始めました。重力などを自身で数値によって定義したコンピュータの仮想空間内で、収集したデータをもとに制作した作品を「仮想空間内の彫刻」と捉えています。本展では、置物、動物、自転車などの乗り物、家具、植物などの3Dデータを自身の“文法”によって組み立てた新作等を展示します。撮影したような視点で切り取られ紙に出力された仮想空間のオブジェクトは、仮想現実と現実、立体と平面の関係性を浮かび上がらせます。

1/17には、グラフィックデザイナーの菊地敦己さんをゲストに迎え、彫刻とグラフィックをテーマにしたトークイベントを開催します。受賞から１年後の個展をぜひご覧ください。

〔 作家挨拶 〕

昔思い描いていた自分の作家像と今の自分とを比べてみると、なんでこうなってしまったのだろうとつくづく思うが、「仮想空間」の中で彫刻を構築し、存在の在りかを確かめるような今のスタイルはかなりはまってきている。

思い返せば小さい頃からインターネットやデジタルゲームに囲まれて育ってきた私である。
今こうしてバーチャルにどっぷり浸かったものをつくっているのは必然的なことなのかもしれない。

特に最近は至る所で仮想体験をすることが多くなってきて、そういったものにリアリティを感じることに抵抗がなくなってきている気がする。
それはYouTubeで誰かのゲーム実況動画を見ているとき、Netflixで機械学習によっておすすめされたB級映画を見ているとき、Instagramのタイムラインに流れてくるどうでもいい料理の画像を見ているときetc.

全てはこのどこまでも続く愛すべき監獄の中での出来事で、その中の「モノ」は愉快で死の匂いがしない。///監獄はどちらか、つまらないことを言ってみる。

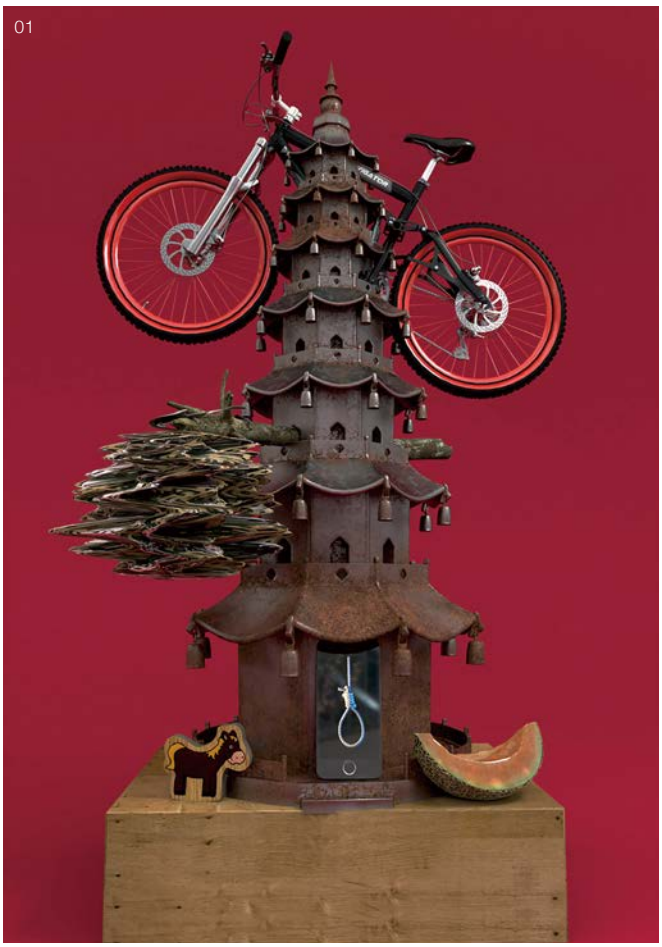
平田尚也　Naoya Hirata

1991年 長野県生まれ
2014年 武蔵野美術大学彫刻学科卒業
2016年 トーキョーワンダーウォール2016入選
2018年 第18回グラフィック「1_WALL」グランプリ
2018年 第21回文化庁メディア芸術祭アート部門審査委員会推薦作品選出

Guardian Garden　RECRUIT

株式会社リクルートホールディングス リクルートクリエイティブセンター ガーディアン・ガーデン
担当：山﨑 m_yamazaki@r.recruit.co.jp
〒104-8227 東京都中央区銀座7-3-5ヒューリック銀座7丁目ビルB1F
TEL | 03-3211-6793 FAX | 03-3575-7077 WEB | http://rcc.recruit.co.jp/gg/
@guardiangarden | facebook.com/guardiangarden.tokyo
guardian_garden

広報用画像一覧



01 塔　02 Baby trick　03 Centaur　04 潜伏 #2　05 潜伏　06 Wild view　07 Wild view #2　08 Saturn

広報用素材として上記の画像をご用意しております。ご希望の方は右記の問い合わせ先までご連絡ください。 お問い合わせ先 | 山﨑 m_yamazaki@r.recruit.co.jp